

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.5 (2012年10月号) ◆

購読会員の皆さま限定のニュースレターも第5号となりました。「Intelligence」会員専用ウェブサイトとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。なお購読会員は9月が更新月となっております。新年度の会費をお早めにお納めいただきますようお願い申し上げます。

【9月研究会の概要：第70回】（9月29日午後3時～4時）司会：川崎賢子

・石川巧「占領下の原爆言説-カストリ雑誌は何を伝えたか」：プランゲ文庫未収録のものを含む占領期の地方誌・新聞も視野におさめつつ、原爆言説が「今なお継続する惨禍や後遺症に苦しむ人々」への言及を迂回していたことなどをめぐって論じて下さいました。

[NPO 法人インテリジェンス研究所発会式：午後4時～4時50分]

- ・占領期新聞雑誌データベースの完成とNPO設立について 理事長 山本武利
- ・NPOと早稲田大学の提携について 副理事長 土屋礼子

[NPO 法人インテリジェンス研究所設立記念講演 午後5時-6時]

・加藤哲郎「日本の原爆導入と中曽根康弘の役割 1954-56—米軍監視記録 Nakasone File から」：1954年3月の中曽根原子力開発予算成立の経緯と原爆導入をめぐる情報戦、「原爆と第五福竜丸の被害にもかかわらず／だからこそ原子力平和利用を」言説の形成過程について、また米側資料における中曽根評価の実態についてお話をいただきました。

【10月研究会の概要：第71回】（10月14日午後2時半～4時半）司会：土屋礼子

・佐瀬隆夫「ザカライアス米海軍大佐による対日心理作戦」：太平洋戦争の末期に米海軍大佐ザカライアスによって行われた対日放送の背景にあった作戦計画を詳述し、その放送内容が日本をポツダム宣言受諾へと導いた経緯を論じて下さいました。

・赤見友子「外交機関としての情報局再考」：Japan's News Propaganda and Reuters' News Empire in Northeast Asia, 1870-1934 を今年の八月上梓されたばかり

の赤見さんが、現在刊行準備中の続編の内容と合わせて、戦前期の北東アジアにおける通信社と日本の情報局の活動を「ニュース・プロパガンダ」という概念を用いて、論じて下さいました。

※なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされています。

<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html>

(閲覧は『Intelligence』の購読会員に限定されています。)

●次回 11 月の研究会は、11 月 17 日 (土曜日) 午後 2 時半から 4 時半までで、中嶋晋平氏・安野一之氏にご報告頂く予定です。12 月は 15・16 日(土・日)に国際シンポジウムとの共催で行い、2013 年 1 月は 26 日(土)に研究会を開催する予定です。2 月はお休みで、3 月は 30 日(土曜日)の予定です。また、ご報告御希望の方は、20 世紀メディア研究所事務所まで、メールにてご一報下さい。m20th@list.waseda.jp

【気になる新著や記事の紹介】[敬称略]

米国陸軍情報部 (MIS) の日系兵士の証言ドキュメンタリー映画『二つの祖国で・日系陸軍情報部』が、第 25 回国際映画祭 10 月 24 日(水)日本橋三井ホールで上映 (12 月に劇場公開予定)。『[編集復刻版] 日本仏教団 (含基督教) の宣撫工作と大陸』(龍溪書舎)、玉居子精宏『大川周明アジア独立の夢』(平凡社新書)、『小野佐世男従軍画譜』(龍溪書舎)、「小野佐世男——モガ・オン・パレード」が、川崎岡本太郎美術館にて (2012 年 10 月 20 日～2013 年 1 月 14 日まで) 開催。『メディア史研究』第 32 号「特集：検閲の諸相」(ゆまに書房)、編集委員の川崎賢子は『ユリイカ』11 月号〈横尾忠則特集〉に「彼の愛した宝塚」を寄稿。朝日新聞 2012 年 10 月 6 日夕刊「昭和史再訪・新聞検閲 戦勝国の「特権」—20 年 9 月・プレスコード開始」に山本武利が「証言」としてコメントを寄せた。

【今月のコラム—長谷川濬と満洲浪漫】

大島幹雄『満洲浪漫 長谷川濬が見た夢』(藤原書店) は満洲国外交部から弘報処を経て満洲映画協会に籍をおき満洲文学運動に重要な役割を果たした長谷川濬の評伝。筆者にとっても『彼等の昭和』(白水社) 以来、長谷川濬は弟の四郎 (満鉄から満洲協和会に転じた) とともに興味深い対象である。引揚後モノにならなかったが CIC (横浜) でバイトというメモは新発見で追跡したいところ。闘病の合間に綴った濬のノートは満洲像を挫折感に染上げているが、インテリジェンス活動は浪漫的気質だけで出来るものではない。

[10 月 22 日付文責：川崎賢子]